薬学生の学習習得度と自己評価式モラルシンキング尺度の関係

○多根井重晴 (日本薬科大学)
豊田弘司 (追手門学院大学)

岡村季光 (奈良学園大学)

キーワード：薬学生，学習習得度，自己評価式モラルシンキング尺度

問題と目的

国家試験や資格に伴う専門的知識の習得は、高等教育における重要な課題である。例えば、薬教育においては、学校教育法および薬剤師法の改正により、2006 年から薬学部における 6 年制課程が新設された。この新制度の導入により、2012 年には 6 年制課程を修了した者を対象とした新薬剤師国家試験が実施された。そこでは、臨床現場で求められる医療の質を担保するため、薬剤師国家試験の出題範囲は 7 領域 9 科目 (物理・化学・生物、衛生、薬理等) の専門分野から合計 345 問が出題されることとなった (江田, 2012)。それ故、薬学部生には膨大な専門知識及び技能の習得が必須とされ、効率的な学習が求められるようになってきた。そこで、著者らは、第 60 回総会で大学生における薬学に関する専門用語の記憶定着に及ぼす反復学習の効果を明らかにしたのである。

一方、薬学生は国家資格を取得していないため、5 年次の長期実務実習期間中に臨床現場で調剤業務に従事することは薬剤師法第 19 条の規定に違反することから、主に知識を評価する客観試験 CBT (Computer-Based Testing) と、技能・態度を評価する客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) を実施することで学生の知識・技能・態度が一定のレベルに到達していることを保証するとともに、違法性阻却事由についても担保している。また、CBT の問題は各分野で取り扱われる重要なキーワード、項目についての基本的知識を問うレベルとなっており、薬学部 4 年次までに学んだ基礎知識を十分に身につけていれば、特別な準備学習をしなくても正答率 70~80% となるような問題を出題することを目安にしている。

さらに、CBT の問題は五肢択一形式を採用していると同時に、1 題の解答時間が 1 分以内となるように出題されている。一方、池田ら (2018) は、第 60 回総会で自己評価式モラルシンキング尺度の開発を発表しているが、文部科学省中央教育審議会は 2011 年に提出した答申のなかで、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している。以上のことを踏まえ、本報では薬学生の学習習得

度と自己評価式モラルシンキング尺度の関係を検討する。

方 法

調査対象 薬学部の大学 4 年生 51 名。

調査内容 a) 池田らが開発した調査票を用い調査対象者に以下の項目に関する質問をし、回答を求めた。①クリティカルシンキング (以下、クリティカル) について、物事に対する態度や考え方に関する 16 項目 (例、いろいろな立場を考え合わせる) ②モラルシンキング (以下、モラル) について、自分の行動に関する 41 項目 (例、ルールに基づいて自分の意見を言う) ③キャリア基礎力 (以下、キャリア) について、行動・活動するときの自分の態度に関する 22 項目 (例、目標を達成するために、現時点ですべきことを的確に把握できる) b) 学習習得度については、暗記科目である薬事関係法規を採用した。ここで、演習 A ではマークシート形式による選択肢試験 (100 問 60 分、国家試験レベル) とした。また、演習 B ではマークシート形式による五肢択一試験 (50 問 50 分、CBT レベル) とした。

結果と考察

キャリア尺度得点と演習 B との間に正の相関が認められたが、どの尺度得点の間にも同じ程度の相関が認められる。この結果は、3 つの能力がいずれも演習 B の成績に反映されていることを示している。一方、演習 A では、モラルとの相関が高くなっている。したがって、演習 A と演習 B の質的な違いのあることがうかがえる。これらの違いを考慮し、学生に育成すべき能力を検討することが今後の課題である。

Table 1 習得度とモラルシンキングにおける各尺度との関係 (r)

尺度	演習 A	演習 B
クリティカル $M=4.19, SD=.68$	.12	.28
モラル $M=4.00, SD=.69$	.26	.25
キャリア $M=4.14, SD=.82$	.12	.36*